



1. 桃の摘果作業をする鈴木聡さん / 2. 加藤和雄さんのハウス桃は5月下旬から出荷が始まった / 3. ハウスきゅうりの手入れをする佐藤賢一さん / 4. 真っ赤に実った早川秀子さんのさくらんぼ

## 「伊達の“旬”を動画で」

新型コロナウイルス感染症の影響で伊達市の農産物を首都圏で宣伝することができないため、動画で伊達市の農業の“旬”を伝える取り組み「農産物NOW」の配信が始まりました。JAふくしま未来の協力を得て、農産物の生育状況やおいしい食べ方などを、生産者のインタビューを交えてお伝えしています。毎週金曜日に伊達市公式 YouTube チャンネルで公開します。ぜひご覧ください。

伊達市公式  
YouTube



### 市長コラム



#### 第23回 地方の時代の到来

新型コロナウイルスを克服した後の社会はどうなるのか。ワクチン開発もいまだ見通せず、第2波も懸念されている中で“何を言っているのか”とお叱りを受けるかもしれませんが、感染防止対策や経済対策と並行して考えていかなければならないことです。

私は、この危機を乗り越えると「新たな時代」が始まると思っています。一言で言えば「地方の時代の到来」です。今までは、効率的に社会・経済を回すためには人を集中させること（一極集中）が必要とされてきました。しかし、コロナ禍を経験して分かったことは、“集中することの危険性”と“分散することの安心感”です。そして、その分散化を後押しするのがオンライン機能だと思っています。緊急事態宣言によってテレワークを導入した企業は多くありますが、「予想以上に効率が上がった」「社員同士のコミュニケーションに効果があった」との意見も多数ありました。

先日、私もオンライン会議を行いました。パソコン画面を通じて意見交換をするのですが、直接対面するのと何ら変わらず、慣れると逆に話しやすいような気がしま

した。“離れてつながる”という言葉があります。物理的距離は離れていてもオンラインでつながることで心はより近づいた気がしました。

瞬時に日本中、世界中とつながるオンライン化は人々の価値観や働き方を大きく変えていきます。多くの人や企業が心の豊かさと安心感を求めて“働く場所”“生活する場所”として地方を目指す時代になると思います。

伊達市では、来年3月に相馬福島道路が全線開通し高速交通体系が整い、それに併せて住宅団地や工業団地、大型商業施設等も整備されます。またオンライン化に不可欠な光ケーブルが市内全域に張り巡らされているなど、人や企業に移住・移転していただける環境は整ってきています。

市としては、新型コロナウイルスへの感染防止と、大きく減少した消費回復を最優先で取り組んでまいります。併せて、コロナを克服した後に訪れる「地方の時代」に伊達市を大きく飛躍させるため、各種事業や施策を積極的に展開していきたいと思っています。

須田博行